

IgE 検査再考 —なぜ今、アレルギーのための IgE 検査が必要か—

獣医師 荒井 延明

スペクトラム ラボ ジャパン株式会社 テクニカル ディレクター, PhD

IgE 検査はアレルギー性疾患のペット管理の上でより適した治療と管理に役立ちます

アレルギーと診断された動物に対して、早期に検査をし、感作抗原を明らかにすることは、効果的な治療と伴侶動物の管理に重要です。SPOT TEST による IgE 検査は世界 30 か国以上で使用されており、IgE が関与するアレルギーを正しく理解する上で重要な検査のひとつであるといわれています。Spectrum Lab. INC は動物用 IgE 検査と、減感作薬提供のフロンティアとして、動物のアレルギー治療に貢献しています。

💡 IgE 検査は必要？

現代社会においてアレルギーと知らずに苦しんでいる人と動物は多いといわれています。人において、“少なくとも 3 人に 1 人がアレルギー体質である”という事実をご存知ですか？人と同じ現代社会で生活する犬や猫にも同様の傾向があることは世界的に認識されています。アレルギー症状には様々な原因があるため、多岐にわたる治療計画が必要です。従って、既往歴と臨床所見だけを頼りにアレルギーの原因を特定しようとするのは困難であると考えられます。

💡 適切な治療を確実にするために

痒みを呈する動物の症状は感染症によるものか、それともアレルギーによるものか？ IgE 検査結果に基づいた感作抗原の絞り込みは、不要な薬剤の処方を防ぐだけでなく、減感作療法をはじめとした適切な治療を行う上でも役立ちます。

💡 アレルギーの原因を特定するために

アレルギーの原因が明らかである場合も、それは「氷山の一角」に過ぎないこともあります。なぜなら、多くの動物が、複数のアレルゲンに感作していることがほとんどで、動物のアレルギー症状をより改善するためには、可能な限り多くその原因であるアレルゲンを特定することが重要であると考えられます。





アレルギー症状は時間とともに変化します

アレルギー症状は消失したり、より重篤な症状に進展したりし、IgEの血中半減期は2-3日と短いため、一生に一度のIgE検査では十分であるとはいえません。定期的にIgE検査を行うことにより、アレルギーの進行を正確に把握し、ペットの生活の質を改善することにもつながります。



アレルギーの症状は様々

アレルギーに共通する症状を呈する疾患の多くは、その原因が病態によって異なり、それにより治療法も異なります。IgE検査の実施は、特定の症状が特定抗原のアレルギーによるものか否かを判断する上で役立ちます。さらには、IgE検査は「動物の症状が特定抗原のアレルギーによるものであることを裏付ける、もしくは、アレルギーである可能性を除外する」ということを確実に判断するのに役立ちます。



アレルゲンは1つとは限りません

最も疑いの強いアレルゲンを特定しようとするだけでなく、アレルギーの症状をもたらしている可能性のあるアレルゲンをより多くリストアップすることが重要です。

⇒SPOT TESTは1.5ccの血清から一度に**92種類**のアレルゲンをチェックすることが可能です。アレルゲンは徐々に増え、アレルギー性の炎症を促し、過敏性を増大させることがあるといわれています。

- アレルギー症状を呈する動物の90%以上は、複数のアレルゲンに感作しています。
- 若齢で初発時の犬では、平均30種類以上のアレルゲンに感作され、健康な個体との有意差が認められています。



アレルゲンは時間とともに変動します

アレルギーは、時間とともに発展し、より重篤に進展することもあります。動物のIgE抗体価をモニタリングすることは、アレルギー疾患が将来どのように進展するかを予測するのに役立ちます。SPOT TESTの検査結果は各項目ごとに抗体価を絶対値（ARU）で表示しているため、個体ごとの経時的変化を追うことができます。

アレルギー性皮膚炎は、初期には発赤などの皮疹のみられない痒みのように、一見、危険性の低い疾患として現れることがあります。中には、何らかの症状が現れるまで数年間にわたり、徐々にアレルギー症状を蓄積していく動物もいます。また、特定のタンパク源

もしくは果物を摂取後、または虫に刺された後、突然、生死にかかわるようなアナフィラキシー反応を起こすケースもあります。さらに、胃腸障害や皮膚炎として始まったアレルギーが、しばしば気道の過敏反応および閉塞といった呼吸器症状に進展することもあります。

なぜ IgE 検査には SPOT TEST が推奨されるのでしょうか？

■ 簡便だから

血液検査は迅速かつ簡便です。SPOT TEST を用いた血液検査では、従来の皮内反応と違い、ペットの年齢、皮膚の状態、服用中の薬剤*、症状に関係なく実施が可能です。（*免疫抑制状態であることを除く）

■ 確実だから

血液検査は、動物が特定のアレルゲンに感作しているかどうかを明確にすることができます。SPOT TEST が IgE 抗体の濃度を正確に測定し、一貫して正確な結果を提供していることは 30 年の実績と減感作療法の結果により実証されています。

⇒ IgG を吸着して除去するために、IgG による擬陽性反応や、プレートへの IgG 被覆による擬陰性反応は出難い仕組みを持っています。SPOT TEST では検体血清に非特異反応を阻害する前処置を行っています。

■ より正しく診断するために：国際的に評価された犬アトピー性皮膚炎の診断の基準

2010 年に Dr. Favrot によって発表された犬 AD の診断基準が The International Task Force on Canine Atopic Dermatitis (ITFCAD) によって新たに支持されています*。

臨床症状からアトピー性皮膚炎を正しく診断するために、以下を参照ください。

1. 発症年齢が 3 歳以下
2. 飼育環境の多くが室内
3. グルココルチコイドに反応する痒み
4. 慢性・再発性のマラセチア感染症（*初発時に皮疹のない痒みあり）
5. 前肢に皮疹あり
6. 耳介に皮疹あり
7. 耳介辺縁には皮疹なし
8. 体幹背側には皮疹なし

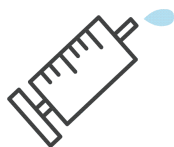


（慢性の再発性の癢痒症を示す皮膚疾患で上記 8 項目のうち 5 項目を満たせば AD の診断率は感度 85%、特異度 79%であり、6 項目を満たせば特異度 89%に上昇するが感度は 58%に低下する：1000 頭以上の統計データ解析に基づく評価で信頼度は高いが、100%の診断基準ではないことには注意が必要。）

引用：Favrot C, Steffan J, Seewald W et al. A prospective study on the clinical features of chronic canine atopic dermatitis and its diagnosis. *Veterinary Dermatology*; 21: 23-30. 2010

■治療のオプションが増えるから

SPOT TEST の1年以内の検査結果から、オーダーメイドの減感作薬を作成し、個人輸入することが可能です。



※ 欧米では皮内反応検査も抗原特異的 IgE 検査も、感作抗原を検出するために行われています。その最終目的は減感作薬を作成することにあります。減感作療法の結果、症状が改善される割合は検査系の優劣に結びつきますが、減感作療法の効果において、複数の検査間に有意な差は認められていません。

減感作療法 はじめてみませんか？

・ ・ 欧米では、アトピー性皮膚炎治療のスタンダードです ・ ・

● SPOT TEST の検査結果から、食物・ブドウ球菌を除く、陽性以上の反応を示したアレルゲンを対象にオーダーメイドの減感作薬を作ることができます。

● SPOT TEST の結果(1年以内)に基づく減感作薬オーダーに必要なものは、下記3点です。

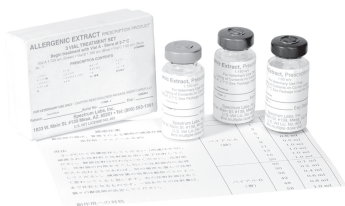
- ・ オーダー表の FAX
- ・ 料金のお振込み
- ・ 初回のみ、院長先生の獣医師免許証のコピーの FAX (A4 サイズ)

オーダー成立により輸入代行会社のアールケイベッツサービスが順法的に手続きを行います。

オーダーより約2～3週間で先生のお手元に減感作薬が到着いたします。

適応症例についてのご相談や、到着後の治療に関しても、担当獣医師がサポートさせていただきます。

減感作薬の個人輸入に関してのお問合せは



(有)アールケイベッツサービス

TEL 03-5731-6966 FAX 03-5731-6967

月曜日～金曜日 午前10時～午後5時

- 無料サポートサービスのお知らせ -

結果の解釈と治療指針や、減感作療法を含めた治療オプションにつきまして無料のサポートサービスを実施しております。お電話か、メールでお問い合わせください。



スペクトラム ラボ ジャパン 株式会社

〒152-0034 東京都目黒区緑が丘1-5-22-201

TEL 03-5731-3630 FAX 03-5731-3631

E-mail: sljsupport@SLJ.co.jp

http://www.SLJ.co.jp